

東京都 江戸川区

持続可能な仕組み作り

江戸川区では、精神障害にも対応した構築支援事業に取り組むにあたり・・・

地域の関係機関がこれからも長く協力し、区の課題に連携して取り組んでいけるよう、持続可能な仕組みづくりや体制整備を目指します。

1 県又は政令市の基礎情報

江戸川区



取組内容

- ・関係機関の連携推進
- ・医療体制の確保
- ・ワーキンググループ活動の推進

基本情報（都道府県等情報）

人口（R3年6月時点）		689,042	人
精神科病院の数（R3年6月時点）		0	病院
精神科病床数（R3年6月時点）		0	床
入院精神障害者数	合計	604	人
（R1年6月時点）	3か月未満（%：構成割合）	142	人
		20.4	%
	3か月以上1年未満（%：構成割合）	97	人
		13.9	%
	1年以上（%：構成割合）	365	人
		52.4	%
退院率（R●年●月時点）	うち65歳未満	166	人
	うち65歳以上	199	人
	入院後3か月時点		%
	入院後6か月時点		%
	入院後1年時点		%
相談支援事業所数（R3年6月時点）	基幹相談支援センター数	1	か所
	一般相談支援事業所数	8	か所
	特定相談支援事業所数	50	か所
保健所数（R3年6月時点）		1	か所
（自立支援）協議会の開催頻度の開催頻度（R2年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	3	回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	無	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R3年6月時点）	障害保健福祉圏域 有・無	／	か所／障害圏域数
	市町村 有	1	／
			か所／市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

・江戸川区では、引き続き関係機関および病院との連携を維持しつつ、区内の人材・社会資源を活用し、持続可能な連携システムとして、具体的な課題により深く取り組むため、ワーキンググループの活動を実施している。

1. ワーキンググループの運営

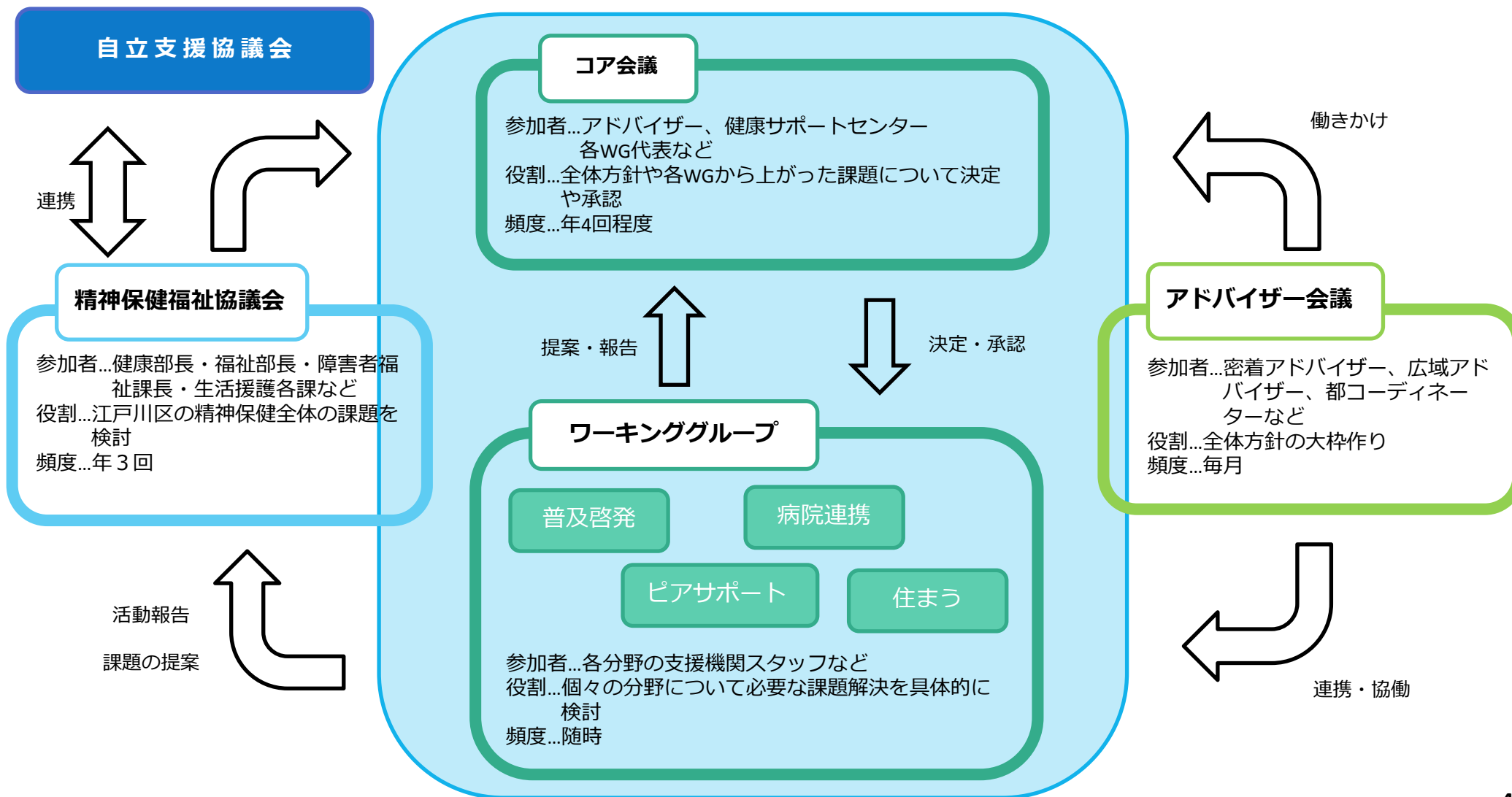
- ・官民協働型の4つのワーキンググループ（普及啓発、病院連携、住まう、ピアサポート）の活動を開始
- ・各グループごとに年4回以上は打ち合わせの場を設定
- ・ワーキンググループの進行方法や在り方について、評価を行う

2. 令和2年度より開始された事業の調整

- ・ピアサポート事業で育成後のピアサポーターの活躍の場の拡大
- ・居住支援事業における大家支援の効果について検証

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

誰もが住みやすい江戸川区に～精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進の体制案



3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- ・H19～20年度 退院促進支援事業 モデル事業実施
- ・H21～24年度 退院促進支援事業および自立生活体験事業実施
(退院促進支援事業はH24年度末で終了、地域移行支援個別給付へ移行。自立生活体験事業はR3年現在も継続)
- ・H25～29年度 区内3圏域にてネットワーク会議開催
- ・H30年度 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業構築支援事業開始 「地域移行支援の推進」
 - ・コア会議・地域移行推進会議開催
 - ・相談支援事業所に働きかけ、地域移行に取り組む事業所を増やす
 - ・江戸川区精神保健福祉協議会(協議の場)の実施
- ・R1年度 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業構築支援事業継続 「住みやすい地域に」
 - ・コア会議・地域移行推進会議継続 ・江戸川区精神保健福祉協議会(協議の場)の継続
 - ・精神科医療機関にて地域移行説明会の実施
- ・R2年度 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業継続
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業開始
 - ・コア会議、地域移行推進会議継続 ・江戸川区精神保健福祉協議会(協議の場)の継続
 - ・ピアサポーター事業開始 ・居住支援事業の拡充 ・東京都ショートステイ事業の受託
 - ・精神科協力医療機関の打診 ・ワーキンググループの設立準備
- ・R3年度 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業継続
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業開始
 - ・江戸川区精神保健福祉協議会(協議の場)の継続 ・ワーキンググループの活動開始

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和4年度までの成果・効果
ワーキンググループ活動＞

	目標値 (R4年度当初)	実績値 (R4年度末)	具体的な成果・効果
①普及啓発グループ活動	4	6	介護分野との連携(なごみの家との事例検討)
②住まうグループ活動	4	5	グループホームコーディネーター・不動産業界の活動内容の確認。
③医療連携グループ活動	4	8	医院への意見伺い。医療機関情報の集約。
④ピアサポーターグループ活動	4	4	ピアサポーターの育成と活動の場の拡大

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

<令和4年度までの成果・効果>

1.ワーキンググループ(WG)全体会の開催

- ・1回目:キックオフミーティング「他自治体の活動を知る」
- ・2回目:各WG活動報告。ごちゃまぜグループで、活動の共有意見交換。
- ・3回目:次年度WGの活動方針、関係者への区の取り組みの普及啓発。

2.精神保健福祉協議会

- ・1回目 書面開催 1回
- ・2回目 対面開催 1回 :にも包括WGの活動報告・ピアサポーターのリカバリーストーリー発表。

3.地域移行支給決定 28件(R5. 2月時点)

- 参考:自立生活援助 88件
- 地域定着支援 88件

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

- ・区内事業者と行政に信頼関係があり連携をとりやすい。
- ・有志の連絡会やネットワークがすでにある。(江戸川区相談支援事業所連絡会、グループホーム連絡会など)
- ・委託事業が充実している。(就労、高次脳、区ショートステイ、都ショートステイ、地域生活安定化支援、ピアサポート、居住支援)

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
ワーキンググループの活動を持続可能なものとするのが出来るか、この方法で効果的な活動が出来るかが不明である。	ワーキンググループを運営していく中で、メンバーからの意見を抽出し、実施方法や効果について検討を行う。	行政	関係者の意見を聞き、ワーキンググループ運営における課題点を集約する
		医療	
		福祉	グループの運営における問題点や困難に感じる点を行政と共有する
		その他関係機関・住民等	
ピアサポート事業があるものの十分なピアサポーターの活用には至っていない。(ピアサポーターを実際に雇用したのは1事業所にとどまっている)	ピアサポート事業で育成したピアサポーターの活躍の場を開拓する。	行政	ピアサポート事業の評価を実施し、活用することによる効果を知る
		医療	
		福祉	ピアサポーターへ期待することや活用する上での懸念点等を行政と共有する
		その他関係機関・住民等	ピアサポーターについて学ぶ

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和5年度末)	見込んでいる成果・効果
①各グループの活動回数の最低値	4		地域の課題解決に向け効果的な協議が出来る
②各グループの代表者による会議実施回数	3		グループの活動に関しての評価を実施できる
③ピアサポーターの新たな活躍の場の増加	1		ピアサポーターの活用が進む

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

江戸川区では、引き続き関係機関および病院との連携を維持しつつ、区内の人材・社会資源を活用し、持続可能な連携システムとして、具体的な課題に深く取り組むため、ワーキンググループの活動を推進していきます。

所管部署名	所管部署における主な業務	連携部署名	連携部署における主な業務
健康部保健予防課精神保健係	地域の課題を集約し、協議の場を作る。	江戸川区社会福祉協議会	地域包括ケアシステムの活動場所の精神関係の課題の共有と解決に向けた検討。

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	健康部健康サービス課健康サポートセンター	精神保健における第一相談であり、地域の状況を把握している。地域の課題の共有と解決に向けて検討していく。
医療	訪問看護ステーション	地域の医療に関する状況の把握と課題の共有。
福祉	相談支援事業所・地域移行支援事業所・日中活動系事業所・居住支援事業所	それぞれの事業所が課題の把握や解決に向けて、熱心に取り組んでいる。独自の連絡会を分野ごとに持っているが、課題解決に向けた横のつながりが弱い。
その他関係機関・住民等	不動産業者	不動産業者のニーズを把握できていない。

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
精神保健福祉協議会	区医師会・病院・商店街連合会・連合町会連絡協議会・NPO法人・精神保健福祉センター・民生・児童委員・公共職業安定所・社会福祉協議会・ファミリーヘルス推進員・家族会・区等の代表	2		
ワーキンググループ全体会	広域アドバイザー・密着アドバイザー・健康サポートセンター保健師・一般相談支援事業所・グループホーム・地域活動支援センター1型・ピアサポーター・区事業所	3		
各ワーキンググループ	密着アドバイザー・相談支援事業所・日中活動系事業所・居住支援事業所・健康サポートセンター保健師	4G×6		

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

8 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
毎月	アドバイザー打ち合わせ	今年度の構築支援の取り組み方針の検討、各ワーキンググループの進捗状況の共有、活動内容の評価
未定 (年4~回)	各ワーキンググループ 打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発: 地域移行推進会議の実施 ・医療連携: 医療機関との意見交換の実施 ・住まう: 不動産業界との連携 ・ピアサポート: ピアサポーターの活躍の場の開拓
R5年7月~ 年間3回予定	ワーキンググループ 全体会	各ワーキンググループの活動内容報告
未定 (年1~2回)	精神保健福祉協議会	にも包括構築の推進、ワーキンググループの活動内容についての報告

モデル圏域から自治体全体への展開に向けた方針

自治体全体への展開に向けた方向性

行政・民間・病院が連携し、精神障害の方が安心して暮らせる地域作りをめざす。

そのために、地域移行の推進、バックベッドを含む病院の協力関係の構築を進める。

具体的な課題により深くアプローチし、より継続的に取り組むため、ワーキンググループの活動を開始する。

<自治体全体への展開に向けた具体的な取組方針>

1年目(令和3年度)

- ・ワーキンググループの活動を開始
- ・各事業(地域移行、居住支援等)の効果の検証
- ・精神保健福祉協議会、自立支援協議会との連携
- ・医療機関との意見交換の場の設置

2年目(令和4年度)

- ・精神保健福祉協議会等を中心とした協議の場の定着
- ・ワーキンググループ活動の継続
- ・ピアサポーターの積極的な活用
- ・医療機関との協力関係構築に向けた体制の検討

3年目(令和5年度)

- ・ワーキンググループ活動の定着、位置づけの明確化
- ・ピアサポーターの活躍の場の拡大
- ・医療機関との協力関係の構築